

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3270101532		
法人名	医療法人祐和会		
事業所名	グループホームアンジュ 2F つばきユニット		
所在地	島根県松江市西津田4丁目7番18号		
自己評価作成日	令和2年11月7日	評価結果市町村受理日	令和2年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号
訪問調査日	令和2年12月1日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・職員は利用者にとって居心地の良い生活が送れるよう日々努めており、「その人らしさ」を尊重した介護を心掛け、実践しています。また、ご家族の声もしっかりと聞き、利用者自身だけでなく、ご家族も安心できるようケアを行っています。  
 ・今年で開所14年目となり、看取りケアを行うことも多くなっている。それぞれのケースに合わせたケアをその度に話し合い、検討を重ねながら最期に寄り添う姿勢を大切にしている。看取り後も振り返りを行うことで、ケアの総括、職員同士のストレスケアを行い、チーム力を強化できるよう取り組んでいる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

以前から年度ごとに行事、防災、研修等の計画、各種会議に委員会などに加え理念に沿ったユニットごとの目標に、職員個々の業務内容が盛り込まれた事業計画が作成されている。理念を意識した個人目標を掲げ、実行そして反省後にはまた、次年度の目標に繋げるなど、職員一人一人がレベルアップを意識して業務にあたっている姿勢が伺える。両ユニット共に重度の利用者があり平均介護度も比較的高く、毎年複数の看取りに取り組んでいる。協力医との連携もよくとれており、利用者の家族の一員として看取るという意識統一がなされている。毎年数人ではあるが職員の退職があり現在も募集を続けている。今年はコロナで雇用面の難しさはあるが、会議等での関わりや地域への発信を続けることで雇用の安定に繋げ、より充実した認知症介護を目指していただきたい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で作成した事業理念をより実践で生かされるよう毎年理念に基づく目標を掲げ職員間で共有・実践し、年度末に振り返りを行い次年度への課題へとつなげている。	新人職員に対しては研修計画に沿って担当を決め業務の中で理念の考え方が伝わるようにしている。職員個々に理念を意識した目標を毎年作成しており、反省に基づき次年度に繋げる流れが確立している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事参加や近所の保育園園児との交流を恒例としていたが今年度は新型コロナウイルス感染予防の為どれも行えなかった。	地区の敬老会への参加や体験の受け入れ等例年続けていたが今年度はコロナで中止。その中でも利用者と職員のみで夏祭りを開催。キッチンカー利用の際、近くの自動車会社の協力を得ることになり新たな関わりに繋がる形になった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内中学校の職場体験や福祉体験学習、資格取得のための現場実習を継続的に受け入れており、認知症高齢者とのかかわり方について実践を交えて伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動を報告する中で様々な意見やアドバイスをいただき、サービス向上に活かしている。	今年は市の担当課と地域からもごく限られた方々のみで定期に開催。利用者状況や活動の様子を伝え意見を得ている。事業計画に沿った施設の取り組みやコロナ対策や認知症の勉強会等を行っている。	より多く各方面からの参加者が得られ会議が開催できるよう検討いただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加していただき、意見・アドバイスをいただいている。また、生活保護利用者については担当ケースワーカーと協力して連携を図っている。	運営推進会議には毎回担当課より参加があり意見を得ている。生活保護利用者の場合も担当職員と関わりを持ちながら進めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を作り、定期的に勉強会を開き職員の意識を高めるよう努めている。定期的に事例検討も行い、抑制しないケアに取り組んでいる。	日中は玄関をオープンにし拘束のないケアを実践するようにしている。委員会での勉強会や施設内の研修も実施している。日ごろはニュースなどの具体的事例を基に検討を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を作り、定期的に勉強会を開き職員の意識の向上を図っている。虐待だけでなく不適切なケアについても意識的に協議し、職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会を行い、必要に応じて相談機関への連携もできるような協力体制ができています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居時に十分に説明を行い、不安に思っていること、疑問点はないか随時確認し丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会の際に様子を伝えるとともに要望を伺い、様子に変化があった際には細かに連絡をとり家族の意向を確認している。また、契約時に外部の相談・苦情対応窓口の紹介を行っている。	月に1回ユニットごとに行事や普段の様子を写真に撮り、便りを作成。それに加え各担当より生活状況を伝える手紙も送り意見を得るようにしている。表情が良く伝わるような写真を選んでおり家族からも好評を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は定期的に職員会議、ユニット会議を開催し、幅広く職員の意見を聞くようにしている。必要に応じて個別面談をして対応している。	定期的な個人面接は行っていないが、ユニットごとの会議や全体会議だけではなくミーティングなどでも職員の意見を聞く機会を多く持つようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務改善が必要なことに関しては広く職員から聞き取り、相談に応じ、働きやすい就業環境の整備に努めている。また、資格取得を奨励し、法人全体で支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を奨励し、初回の受験料は法人負担し、受験日も出勤扱いとしている。資格取得後は給与に反映される。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松江市グループホーム部会の研修に毎回参加をしていたが今年は感染症対策の為に中止となり参加できていない。法人内の他事業所とは密に連携をとり、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学時や入居前の面談時から本人や家族が持っている不安や要望に対してそれぞれの思いを十分に汲み取るよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前、導入時に随時間き取りを行いながら不安に思っていること、要望を聞き出し、それに応じて丁寧に説明、対応を行うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前の面談や家族からの聞き取りをもとにユニットで事前にカンファレンスの場を設け、必要としている支援を相談し、協議しながらより良いケア模索している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はともに生活している者という意識を常に持ち、利用者とお互いに助け合える関係を築けるよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	きめ細やかに家族への情報提供を行い交流を持ちながら、家族と職員が協同して利用者を支えていくという関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係の継続を大切にするようにしているが、今年は感染症予防の為不要不急の外出・面会は控えていた為あまり実施できなかった。電話の取次ぎは要望を聞きながら随時行っていた。	コロナではあるが、かかりつけがある方は理美容院への送り迎えを継続している。ケーブルテレビで地元の出来事を見るようにしたり、通っていた学校に出かけるなど思いが継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立することのないよう人間関係の相性を考慮しながら職員が間に入ったりしながら利用者間の交流を援助している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の事業所等から要望があれば情報提供をしたり、必要に応じて相談、訪問も対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や関わりを通して一人ひとりの思いを知るよう努めている。意思疎通の困難な方に対しては家族に本人の思いを代弁してもらいながら、利用者本位のケアに努めている。	普段のケアの中でいい表情をされた場面や発せられたことばを職員間で共有するように努めている。認知症の進行の為記憶が続かない方も多いが場面場面でいい表情が見られることを喜びと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集時に本人や家族、担当ケアマネ等の関係者から生活歴や暮らしについて聞き取りをし、把握に努めている。アセスメントにセンター方式を活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、望む生活を送れるよう日々の表情、会話から状態を把握し、出来る力を伸ばすケアを行うよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族への聞き取りから情報収集をし、個別カンファレンスにおいて担当職員が中心となりながら全職員でかかわり、その人らしい生活を送れるようプラン作成、実践を行っている。状態に変化があれば都度見直しを行っている。	モニタリングは2か月に1回記入。目標の評価をわかりやすい記号に変更したり記録に工夫が見られる。今年度は家族参加での担当者会議ができないため、電話で様子を伝え意見をj得る形で計画作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況や精神面での変化を見逃すことのないように、個別ファイルに記入し、全員で確認・把握をしている。その他にも連絡ノート等を活用し情報共有に漏れの無いように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに柔軟に対応できるように勤務ローテーションを工夫したり、受診援助、外出支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会長や民生委員等を中心とした地域住民や、市の担当職員等から必要な情報、助言をいただき活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を聞きながら入居前のかかりつけ医を希望される場合は継続して受診できるようにしている。また、協力医は月2回の往診の他、緊急時の対応や随時電話相談にも応じてもらい、連携が取れている。	かかりつけ医を継続することも往診可能な施設の協力医に変更することも可能で、入所時に決めることになっているが多くの方は変更を希望。眼科、整形、歯科などは職員が付き添い受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師への定期報告、その時の様子も細かく伝え、何か変化があれば早期発見、早期対応ができるよう看護師との連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを病院に提出し、入院期間中も病院や家族から定期的に状況を聞き状態の把握に努めている。安心して退院できるよう退院前カンファレンスへの参加や、家族や病院スタッフへの聞き取りを密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期対応指針を説明し、家族から同意を得ている。終末期を迎えることになった場合は主治医からの意見も含め、再度説明を行い、事業所で出来る事・出来ない事を十分に説明し、理解をしてもらった上でターミナルケアを行っている。	以前から看取りに取り組んでおり、今年度もどちらのユニットも数名の看取りを行っている。今後に於いても本人や家族関係者の希望があれば協力医の指示のもと取り組む意向を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに従い、職員は非常招集を含め各自の役割を適切に行えるよう訓練を行っており、定期的に勉強会も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間を通して、火災、地震を想定した総合避難訓練と消火訓練を行っており、過去の事例を教訓とした勉強会も行っている。町内防災対、周辺事業所とも非常時の協力支援体制もできている。	海や川から離れた平地に位置しており自然災害の危険性は少ない場所だが、いろいろな災害や夜間や日中など想定を変えたり、火災中心の避難訓練を繰り返し行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「その人」自身、一人ひとりしっかり理解を深めることで、個人の尊厳を尊重し、自尊心を傷つけないよう配慮している。	接遇や個人情報など研修計画を作成し取り組んでいる。介護経験の少ない職員には指導担当が付き実際のケアの場面で繰り返しつたえるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃のコミュニケーションの中で本人の思い、希望を汲み取れるようにしている。職員主導にならないよう注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のコミュニケーション、アセスメントを通じて「その人」の生活に注目し、「その人」のペースに合うよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の際は、着替えをご本人に選んでもらえるようにしている。コロナウイルス発生後は外出支援が出来ない為、普段の洋服選びや施設内行事への参加時にお洒落を楽しめるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できること・できないことを把握し、できることを活かしながら食事準備時に分担して作業をしてもらっている。	管理栄養士を雇用しておりメニュー作成から買い物、調理を中心に行っている。まとめて調理しているが、盛り付けなどは職員と一緒にするようにしている。笑ったり大きい声をだしたり楽しく口腔体操が行われていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理は管理栄養士と協力しながら行っている。水分量については一人ひとりチェック、記録し情報共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせた道具、ケア方法にて介助や声掛けを行っている。必要に応じて歯科往診や訪問指導を依頼し、ご本人に合った口腔ケアの実施に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを使用されている方はおられるが、一人ひとりの排泄パターン、ADLを把握しながらその方に合った排泄介助を行っている。	重度でおむつ使用の方は定期交換で対応。自立の方、声がけの必要な方と個々に合わせた対応としている。紙パンツにパット併用者が多いが、尿量に合わせて使い分けコスト面にも配慮するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を記載し、把握しながら看護師・医療機関と連携して便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯は決めずにご本人に聞きながらその日の体調や気分に合わせて行っている。	家庭用の浴槽でスペースも限られるため重度の場合等中につかれない方もある。シャワー浴、足浴、かけ湯、清拭等状態に合わせて対応している。週2回の入浴を確保し、意向を聞きながら行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	長時間座りっぱなしにならないよう、声掛けし、随時休憩を促している。夜間は安眠できるよう音や光に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関、薬剤師と連携をとりながら服薬支援を行っている。症状の変化については職員全体で情報を共有し、記録して把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新型コロナウイルス感染症対策の為、外出や外部の人との交流による気分転換や楽しみごとを作ることが難しいが、施設内で出来るおかし作りなどのイベントを日々考え工夫している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症対策の為、外出支援は出来ていない。日々のコミュニケーションの中で本人の希望を汲み取るようにしている。	今年に於いては散髪等での外出に限り行っており、普段は玄関先やテラスでひなたぼっこをすることで気分転換に繋げていた。外出の機会が少ないため秋になりイチョウを見に出かけ季節を感じられる機会とした。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望されればご自分で現金を管理し使用できるようにしている。その他お預かり金として施設管理の小口現金もあり、必要に応じて使用できるよう対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関してはあらかじめ家族に確認をとってから連絡できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地良く過ごせるよう音・光・温度の調整は十分に配慮している。一緒に作成した作品などを飾っている。	近隣には会社関係の建物が多いが交通量はあまり多くなく比較的静か。住宅地でもあるため自然を感じる場面は限られるため、季節の花をがあちこちに飾られている。テイルームにはよく日が入り明るい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の性格や人間関係などを考慮して共有空間での過ごし方や席の配置などに気を配っている。気の合う利用者同士での交流の希望があれば居室間の行き来の支援もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面にも配慮しながら、昔から馴染みのある物や好みの物を置けるようにしている。	思い入れのある物の持ち込みを薦めており小さめの仏壇やタンス、テーブル、ソファ、テレビなどを置きくつろげるようにしている。好みの絵画や自分の作品、家族写真など壁にも沢山貼られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「出来ること」「分かること」を把握し、混乱を招かないよう分かりやすく貼り紙をしたり、工夫している。		